



秋が深まり、木々の色づきや木の実などを子どもたちと楽しむ日々です。近隣の公園や野川公園遠足でいろいろな種類のドングリを拾ってきました。

残念ながら年長組は雨天のため遠足に行かれませんでした。そこで、夏に年長学年で育てたトウモロコシをポップコーンにして、年少児と年中児にドングリー粒でポップコーンと交換するという楽しいお買い物ごっこをして、大量にあるドングリをおすそ分けしてもらうことにしました。なんと楽しい展開でしょう。異年齢の交流をすすめてきたため、顔見知りの年長の友達との距離がまた近くなり、年長の部屋がますます楽しい場所になりそうです。ドングリを使ったお話しづくりにも発展しそうです。

子どもたちが体験した、自然物や自然事象との出会い、生き物との出会い、物事との出会いなどから刺激を受けて空想を巡らし、架空の世界を想像してみる楽しさは幼児期だからこそ味わえることでもあります。私が幼稚園の時、あまりに空想話をするので、母親が園長先生に大丈夫かと尋ねに行ったようですが、それこそが幼児の特性と言われて帰ってきたようです。時代は変わり、幼児もITが身近になり、知識をすぐ手に入れられるようになりましたが、森の中の探検や空を飛び世界をめぐるなど、ありえないことを言葉の獲得と同時に組み立てながら自分の思いを巡らせることを楽しんでほしいと思います。

今年度から、年長組の絵本カードを絵本ノートに変えました。週末に持って帰った絵本について絵を描いたり面白かったところや好きだったことなどの感想を保護者の方に書いていただいたり、読んでいる様子を書き留めていただいたりすることをお願いしました。親子のコミュニケーションの場になっていたり、書くことを楽しみにしているお子さんもいたり、保護者の方が素敵な絵を描いてくださっていたり、親子協同画だったり、お父さんや兄弟、おばあちゃんが読んでくれたり、逆にお子さんが読み聞かせしたりとここに書ききれません。ご家族の大切なノートになっていると感じています。週明けに年長の子どもたちがノートを自慢して話してくれます。物語の世界を一つでも多く楽しんでほしいと願います。